

**令和2年度
第2回地域振興会議会長会議事概要**

日 時：令和3年2月8日（月） 13時00分～14時30分
場 所：市役所本庁舎6階 会議室6-8

〔本庁関係〕 1名
深澤市長

〔各地域振興会議〕 16名

会 長：森田会長(国府)、南部会長(福部)、竹田会長(河原)、西川会長(用瀬)
小谷会長(佐治)、河根会長(気高)、小川会長(鹿野)、高橋会長(青谷)
総合支所：岸田国府支所長、平戸福部支所長、九鬼河原支所長、片山用瀬支所長
西尾佐治支所長、三谷気高支所長、米田鹿野支所長、見生青谷支所長

〔事務局〕 3名

市民生活部地域振興課：田中次長、山名課長補佐、金森主事

【会議次第】

- 1 開 会
- 2 市長あいさつ
- 3 各地域で重点的に取り組んでいる事項について
- 4 その他
- 5 閉 会

議 事 概 要

1 開 会

2 市長あいさつ

3 各地域で重点的に取り組んでいる事項について

① 国府地域振興会議 森田会長

○国府地域における地域資源を活用した取り組み

1. 「因幡の傘踊り」の創始者である山本徳次郎を顕彰する自主映画作りについて

国府地域では「因幡の傘踊り」の創始者である山本徳次郎にスポットを当て、自主映画作りに取り組んでいる。令和元年度から谷地区活性化協議会が映画制作に関する視察研修の実施や地域住民主体のワークショップやフォーラムを開催し、自主映画を活用したまちづくり計画を策定した。併せて、令和2年7月に「山本徳次郎自主映画制作実行委員会」を設立し、谷地区のみならず国府地域全体から多くの方が参加されている。地域住民が主体となって自主映画の企画・制作・上映を行うことにより、地域住民が楽しみながら地域活性化に向けた取り組みを進めている。令和2年度は鳥取市の「輝く中山間地域創出事業補助金」を活用し、映画の企画書・シナリオ制作・スタッフ・キャストの確保に取り組んでいる。また、自主財源の確保のため、協賛金を募り、国府町内から広く協力を得ている。令和3年度に映画の撮影・上映を行う予定である。

2. フォトコンテストやジオ体験イベントに対する取り組み

国府地域のさらなる魅力発信と知名度の向上を目的とし、「国府よいとこ観光キャンペーン 2020 フォトコンテスト」を開催した。雨滝・扇ノ山を題材とする「ジオパークエリア部門」と、雨滝・扇ノ山を除く国府町の観光スポットを題材とする「観光地部門」の2つの部門で写真の募集を行い、県内外から87件の応募があった。この取り組みによって、国府地域の観光資源の情報発信だけでなく、写真撮影のために国府地域を訪れていただくことも国府地域の魅力の再発見に繋がると期待している。今後、審査会を開き、入賞作品は市の施設などで展示するほか、ホームページへの掲載やポスターなどに使用して、広く紹介する予定である。

<市長による意見・感想>

令和3年度に映画が上映され、DVDも制作されるとのことなので、映画とともに国府町の魅力を広く発信していただけるのではないかと期待している。また、フォトコンテストには87件と沢山の応募があったとのことだが、今後さらに情報発信をしていただき、雨滝・扇ノ山といった国府町の地域資源を広めていただきたい。

② 福部地域振興会議 南部会長

○公共交通の確保と地域活性化の取り組みについて

1. 公共交通の確保

福部町内では、日交バスと市社協のらっちゃんバスが運行している。らっちゃんバスについては、1日8便運行しているが、日中の利用者数が少ないことや運転手不足の問題がある。鳥取大学に協力していただき、令和2年度に生活交通に関するアンケート調査を実施した。その中で、運転手になってほしいという方が多くいらっしゃることが分かった。その結果を参考にし、福部町の公共交通が続いていくよう、町内の公共交通のあり方を検討していきたい。

2. 空き家の利活用

福部町内には現在86戸の空き家がある。令和3年度から、福部町まちづくり協議会と連携して鳥取市移住定住空き家運営業務に取り組む予定としている。その団体を中心として、福部町の空き家を活用した地域活性化の取り組みを進めていきたい。

3. JR 福部駅を活用した地域活性化について

現在、JR 福部駅を活用した地域活性化策を検討しており、その参考とするため若桜鉄道等の視察を行った。今後、JR など関係団体と協議しながら、福部町の中心地にある JR 福部駅の具体的な活用策を検討していきたい。また、塩見川の整備計画を県とともに進めており、工事が完了すれば、JR 福部駅前が浸水被害を受ける可能性が低くなるため、駅前の活性化につながることを期待している。

4. インターチェンジ設置要望について

以前から、福部 IC-大谷 IC 間に新たな IC を設置していただくことを国・県等に要望しているが、福部町にとっての大きな公共投資となるので、市長にも是非ご協力をお願いしたい。

<市長による意見・感想>

○インターチェンジ設置要望について

鳥取市としても、関係先等に働きかけを行っている。地域の皆さんと一緒に、実現に向けて取り組んでいきたい。

○公共交通の確保

らっちゃんバスの取り組みを聞かせていただいたが、路線バスなどのドライバーの確保については、地方自治体にとって大きな課題となっている。鳥取市としては、交通空白地有償運送（共助交通）を推進していくとともに、引き続き国・県等に対して生活交通の維持確保に関する支援の働きかけを行わなければならないと考えている。

○空き家の利活用

空き家の利活用に関する取り組みを行っても良いという団体がおられ、非常に心強いと感じている。このことにより移住定住が促進されることを期待している。

○JR 福部駅を活用した地域活性化について

JR 福部駅を活用した地域活性化について取り組んでおられ、その前提として、塩見川の改修が進んでいるという話があった。塩見川は、下流の整備に引き続いて上流の整備に入っていくと思うが、市としてもこの事業にしっかりと取り組んでいきたいと考えている。

③ 河原地域振興会議 竹田会長

○「古事記・八上比売」観光活用推進と河原地域公共交通確保の取り組み

1. 売沼神社の観光活用について

河原地域には、古事記にも載っている八上姫が祀られている売沼（メヌマ）神社があるが、知名度が低い。一昨年頃から、商工会で話題に上がり始め、新聞にも2～3回取り上げられた。また、八上郡は古くから栄えていた地域で、俳人田中寒楼氏の出身地でもある。

八上姫伝説は出雲とも関わりが深いことから、八上と出雲をつなぐ観光ルートを作り、観光資源として活用する取り組みを商工会等と連携し進めている。

2. 公共交通確保の取り組み

国英地区は、一部の地域を除いてバスが運行していない。児童数の減少で小学校が無くなったこともあり、公共交通の確保に向けた取り組みはなかなか前に進んでいなかった。しかし、高齢化により交通手段に困る住民が増えたことで、生活交通確保の取り組みが進み、コミュニティバスの運営を開始することとなった。

<市長による意見・感想>

○公共交通確保の取り組み

鳥取市としても、先進的な地域交通の取り組みになるのではないかと期待している。従前どおりの制度では上手くいかない面もあると思うので、運営しながら新しいやり方や制度を模索していただきたい。市と地域と一緒に、新しい生活交通の仕組みを作っていきたいと考えている。

○売沼神社の観光活用について

河原町の中でも八上郡は古くから栄えていた地域であり、八上姫は古事記の時代から残る伝説で、白兔や出雲文化圏ともかかわりが深い。河原町の地域資源としてこれから大いに発信していただき、鳥取市も協力していきたい。田中寒楼氏の話が出たが、最近では知らない方も多し。こういった素晴らしい方がいらっしまったということも、さらに情報発信していただければ大変ありがたい。

④ 用瀬地域振興会議 西川会長

○地域防災力向上の取り組み

1. 自治会・自主防災会の連携による地域防災力の向上

用瀬町の各集落で避難スイッチ（避難を始める基準）や順路を決めた用瀬町版の防災のしおりを住民全員で作成した。住民が作成に関わることで、住民一人一人に防災意識が生まれることを期待している。しおりの内防災マップ部分については、各集落の集会所にA1サイズのものを設置し、普段から見やすい状況にしていきたいと考えている。

2. 用瀬方式を含めた地域内情報伝達設備整備事業の推進による各種情報の確保

用瀬方式とは、1台の音声告知端末を集落にある有線放送施設に接続することにより音声を流すという方式である。用瀬支所や社会福祉協議会、農協からの連絡などは、デジタル化された防災無線では流すことができないため、この方式を含めた地域内情報伝達設備整備事業を推進していった。以前のアナログ有線放送よりも音質が良くなったと感じている。

3. 用瀬町における各種防災関連事業の支援

用瀬中橋は非常に低い橋で、平成30年7月豪雨の際には、橋が川の水をせき止め、用瀬町内に水が流れる一歩手前まで水位が上がった。橋の撤去を行うことも防災力向上の一つと考える。地域としてもしっかりと取り組んでいきたい。

<市長による意見・感想>

○自治会・自主防災会の連携による地域防災力の向上

地域独自の防災マップを作成し、集会所に常時掲載するというのは、日ごろから地域の皆さんの防災意識を高める素晴らしい取り組みだと感じる。

○用瀬方式を含めた地域内情報伝達設備整備事業の推進による各種情報の確保

防災行政無線は、従来の地域行政情報等の音声流れないといった課題があったが、用瀬町では音声告知端末等を活用した取り組みをいち早く行っていただき、感謝を申し上げたい。以前、鳥取市では集落単位の防災資機材の支援制度を3年ほど続けていたが、もう少し大きな資機材が必要だという話も伺っている。まだ令和3年度の当初予算が確定していないが、地区単位で資機材を購入していただけるような制度を令和3年度から作っていききたいと考えている。

○用瀬町における各種防災関連事業の支援

中橋の撤去は以前からの課題であり、専門家からも危険性について指摘を受けていた。橋の撤去について、地域の皆さんからもご理解をいただけて大変感謝している。

⑤ 佐治地域振興会議 小谷会長

○将来の地域内交通の在り方検討について

佐治町は、新市域の中では人口減少と高齢化が突出して進行しており、生活に必要なサービスや機能が縮小・後退していくことが想定される。小さな拠点事業による新たな仕組みづくりを通じて、これからも佐治町に住み続けていくことを目指す。

令和元年8月末に、小さな拠点事業の運営組織としてNPO法人さじ未来を設立し、地域助け合い事業などの取り組みを開始した。

その中で、佐治町を運行している路線バス・有償バスの維持が難しくなっている現状を踏まえ、令和2年6月に、中学生以上の住民を対象とした、移動実態や共助交通などに対するご意見などを把握するアンケート調査を実施し、11月には佐治線の路線バス乗降調査を実施した。その結果等を参考にしながら「佐治町生活交通会議」の中で、これからの地域内交通のあり方の検討を行っている。

また、市の補助を受け、令和2年11月と令和3年1月に、通院や買い物利用等を想定した共助交通事業の試験運行を実施した。その時の利用者の意見や要望等を、本格運行の際に参考としたい。

路線バスの乗降調査の結果、朝晩は小中学校の登下校でバスの利用があるが、昼はほとんど利用が無かった。佐治に限らず、どの地域でもこのような傾向だが、実態を踏まえて、どのようにしていけば便利で効率的な地域内交通ができるか、生活交通会議の中で検討していきたい。令和3年10月を目途に、佐治町内で共助交通を運行できるよう現在取り組んでいるところである。

<市長による意見・感想>

地域にはそれぞれ色々な実情があり、その実情にあったやり方や制度があるのではないかと考えている。このような制度があればいい、こういう部分は変えた方がいいというようなことがあれば教えていただき、一緒に取り組んでいきたい。車両の購入経費の補助については、これまで上限があったが、大きな車両が必要となる場合があるため、令和3年度から制度の拡充を図りたいと考えている。

⑥ 気高地域振興会議 河根会長

○気高地域4小学校の新設統合

気高町には逢坂・瑞穂・宝木・浜村の4つの小学校があるが、年々児童数が減ってきている。これまで、旧鳥取市内からも児童を受け入れる体制を作るなど色々な対策は行ってきたが、今後少子化が進むことにより、さらに児童数が減っていくことが想定される。この状況を踏まえ、2~3年前からそれぞれの小学校区で「教育のあり方を考える会」を立ち上げ、地域住民を対象とした説明会を行ったりアンケート調査を行ったりしながら、今後の気高地域の小学校の在り方について検討を重ねてきた。逢坂・瑞穂・宝木・浜村の各小学校の統合要望や第14期鳥取市校区審議会答申を受け、令和2年度中には「気高地域小学校統合準備委員会」を立ち上げる。4つの小学校の早期統合に向け、小学校を新設する時期や場所、教育理念や校歌、学校を統合した際の交通手段等について、市教育委員会と課題の整理・調整等を行っていく。空き校舎の活用など、今後、自分たちの地域をどうしたいのか各地域で検討を続けていく。

<市長による意見・感想>

気高地域の小学校の新設統合について、経過も含めてご報告いただいた。令和2年10月に第14期鳥取市校区審議会答申を受け、12月に定例教育委員会において4つの小学校の新設統合が決定されたところである。色々な経過があったが、将来を担っていく子どもたちのために、一番良い選択はどれかというところで判断していくことになると思っている。小学校の新設の時期・場所など色々な課題が残っているが、子どもたちのために、鳥取市も地域の皆さんと一緒にしっかりと取り組んでいきたいと考えている。

⑦ 鹿野地域振興会議 小川会長

○西日本最大級のハスの里づくり

鳥取大学の教授が退官にするにあたり、遺伝子研究用に栽培していた多様な種類のハスの引受先を探していた。その中で、NPO 法人いんしゅう鹿野まちづくり協議会にも声かけがあり、鹿野地域としては「気品があり優雅なハスの花は、城下町鹿野にふさわしい、世界中のハスを鹿野で見ることができると夢がある」と受け入れを決めた。平成20年3月、鹿野心のふるさとづくり委員会が、鳥取大学から195株を鹿野地域へ持ち帰り、100名ほどの住民がハスの株分け作業を行った。ハスの「子株」は参加住民が持ち帰り、「里親」として育ててもらふこととした。また、親株は旧鹿野小学校のプールで管理しているが、3年ごとに株分け・植替えを行う必要があり、毎年3月頃に同委員会が住民ボランティアと作業を行っている。その際に生まれる貴重な子株を活用しようと、平成25年から鹿野城下町地区周辺の休耕田に、子株の植付けを始めた。

鹿野心のふるさとづくり委員会では、「西日本最大級のハスの里」づくりを目指し、令和2年6月、新たに鹿野町総合支所前の休耕田約1500㎡にハスを植え付けし、現在、鹿野町総合支所前に約6000㎡、鳥の劇場横に約300㎡のハス園を整備している。また、里親となった住民のハスは、毎年7月頃にきれいな花を咲かせている。

PR活動としては、開花状況を鳥取市公式ウェブサイトでも更新、令和2年7月6日~8月30日にハスの花写真展を往来交流館童里夢で開催した。また、市民から「ハスの写真を撮る方が多くいるが、鹿野町のハスと分かるような工夫してほしい」との声を受け、写真撮影スポット用のPR看板を設置した。毎年開催している「蓮ウォーク」は、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。令和3年度は開催したいと思っている。「西日本最大級のハスの里」を目指すとしているが、ゆくゆくは日本一を目指して頑張りたい。

<市長による意見・感想>

世界中のハスの花を鹿野町で見られるというのは、地域の特性を生かした素晴らしい事業である。鹿野町は地域で一丸となって様々な取り組みをしておられるので、これからこの事業もさらに盛り上げ、情報発信をしていただきたい。鳥取市の方でも必要な資機材等あれば支援させていただきたいと考えている。

⑧ 青谷地域振興会議 高橋会長

○生活交通の在り方検討

青谷町内にある2つのバス路線は、廃止の可能性が高い路線となっている。令和2年7月に青谷町地域生活交通協議会を設置し、協議会のメンバーとして地域振興会議委員からも2名参加している。その中で、地域振興会議の提案で、青谷町全戸に地域交通についてのアンケート調査を行った。その結果、これまで見えなかった問題が表面化して、大変良かったのではないかと考えている。

青谷町は平成22年度に小学校を1校に統合した。その際に、スクールバスではなく、民間のバス路線を利用することになったが、路線が廃止されてしまうとどうなるのか。また、統合の際に「通学に関しては確保する」という約束をしていただいているので、この件に関しては鳥取市にお願いしたい。

路線バスは、日中の利用者数が少ない時間帯は小型マイクロバスで運行する等しなければならないと思うが、小学校の通学は大型バスでなければ不可能である。また、青谷地域は、新市域の中で唯一民間のタクシー会社が残っている地域であり、共存しながら進めていきたい。

○青谷高等学校の地域連携等の活性化支援

青谷高校は、西地域に唯一の県立高校として、青谷地域の地域振興に欠くことができない存在である。数年前に「県立青谷高等学校の活性化を支援する会」を設置し、地域内外へ向けてアピールを行っている。青谷地域が中心となって取り組むが、地域振興の観点から鳥取市にも協力をお願いできたらと考えている。

現在、県の教育委員会と連携しながら、県外生徒の募集を検討している。今後、生徒の下宿先の確保という大きな課題が出てくるので、ご意見等があれば聞かせていただきたい。

○青谷上寺地遺跡の史跡整備

令和2年度から青谷上寺地遺跡の史跡公園整備がスタートした。公園のグランドオープンは令和11年度だが、令和5年秋の展示・ガイダンス施設及び山陰道南側一帯の「弥生の暮らし体験ひろば」などの開園までわずか2年半となっている。県・市と一緒に、北前船や古代山陰道とともにPRしていきたいと考えている。

最後に、青谷町は、以前から委員提案を推し進めている。若手を中心に委員提案を行い、より良い青谷町を作っていけるよう努力している。

<市長による意見・感想>

○生活交通の在り方検討

小学校の通学について、教育委員会だけでなく交通政策課など、全庁的に一丸となって対策を講じられるようにしていきたい。

路線バスの運行については、日中の利用者数の減少は鳥取市全体の課題でもあるので、これからも様々な形で取り組んでいきたい。場合によっては、全国の市町村の問題にもなりうると思うので、国の支援策等について地方から提言することも考えている。人口減少や少子高齢化が進んでいく中で、生活交通をいかに守っていくかが重要なので、しっかり取り組んでいきたい。

○青谷高等学校の地域連携等の活性化支援

青谷高校は、青谷地域の地域振興に欠くことができない存在であるという話があったが、私もその通りだと考えている。鳥取市としても、青谷高校の卓球や県外留学生の下宿先の問題など、地域の皆さんとしっかり検討していきたい。

○青谷上寺地遺跡の史跡整備

古代山陰道は全国的にも話題になり、令和2年の市政の重大ニュースにも取り上げられた。令和5年に展示・ガイダンス施設等が開園されるとのことで、国内外から注目される施設になるのではないかと考えている。令和11年度までの長い計画だが、一つずつ課題をクリアしていき、全国に誇れる歴史や地域資源の保全活動やPRに取り組んでいきたい。

4. その他

○情報提供：亀井さん検定について（鹿野支所地域振興課）

鹿野藩初代藩主である亀井茲矩公のことをもっと身近に感じていただこうと、「亀井さん検定」を行うこととなった。ご興味のある方はぜひお申し込みいただきたい。

5. 閉会